

- ② 初心者に、高齢者に親切！
グラウンド・ゴルフで健康づくりをしてみませんか
大阪体育大学名誉教授／細川 馨
- ⑤ 伝統が育む豊かな心
●熊本県 専修大学玉名高等学校
●千葉県 専修大学松戸中学・高等学校
- ⑥ 親切運動41年目の新たな挑戦
広島電鉄株式会社
- ⑧ 思いやりの心で大雪に立ち向かった子どもたち
- ⑩ 篠原康次郎前顧問を偲んで
- ⑪ 酔いどれ脳科学
スマホは脳を退化させる?! 方向音痴と脳科学
- ⑫ のんちゃんのおススメスポット
「たばこと塩の博物館」
- ⑬ コラム「これってどうなの?」／親切を見つけて発信しよう
- ⑭ Information & HIROBA



表紙写真

- ①：専修大学玉名高等学校の皆さん
- ②：おしゃれなたばこの広告（たばこと塩の博物館）
- ③：広島駅前でのあいさつ運動
- ④：奈良の大仏プリン
- ⑤：昭和レトロなたばこ店（たばこと塩の博物館）
- ⑥：グラウンド・ゴルフで健康づくり

「小さな親切」誌は、季刊発行
春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

平成 30 年 5 月 1 日発行 通巻 510 号
編集・発行人 鈴木恒夫
発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-20-4
TEL. 03-3263-2866 FAX. 03-3263-3838
<http://www.kindness.jp/>
印刷所 広研印刷株式会社
©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。
デザイン・DTP 有限会社リトルフット
イラスト P11：清水 稔／P13：安彦麻理絵



「なあに、もともとオレのもの」

代表 鈴木恒夫

私の社会人としての仕事は、毎日新聞の政治記者から衆議院議員が主だったが、4年ほど前から、この「小さな親切」運動の6代目の代表に任じられてからは、およそ政治に関連する事柄については、すべての言動を慎んできた。

「一人はみんなのために みんなは一人のために」という言葉に象徴されるように、日本の社会の礎を守り、より強固なものにしていくための心がけとして、私は政党や政治家個人に関しては不偏不党、無言の立場で臨むべきだと考えているからだ。

しかし、今回に限っては、個人的なつながりに加え、特別な思いも高じて、政治家二人を取り上げさせてただく。河野洋平元衆議院議長と、長男の河野太郎現外務大臣親子についてである。

昨年8月に、かつて父親もつとめた外相に就任した太郎氏は、米国留学で磨いた英語力を駆使して大活躍中。太郎氏の顔をTVや新聞などで見るたびに、私は16年前（2002年）の、親子の間の生体肝移植のことを思う。「子の親殺し 親の子殺し」などといった、すさまじい事件が頻発する今日の日本社会のありさまのなか、お二人が残されたものの尊さを、身近にいた私は書いておきたいと思う。

移植から2年後の2004年に、お二人は全てを明らかにした『決断』という本を朝日新聞社から出版されているが、私は洋平氏が1976年に起こした新自由クラブという新党運動を記者として報じたご縁から、そ

の1年後に政策スタッフとして側近に身を置き、それ以来ずっとこの親子の姿を目にしてきた。のちに洋平氏が回顧録の中で私のことを「同志中の同志」と書かれ、当方は身の縮む思いをしたものだ。

そのころ、まだ太郎氏は中学2年生。河野家伝統の陸上競技部に身を置く、頭のいい元気な男の子だった。ずっと後に知ったことだが、すでに洋平氏はこの頃から体の異変に気づいていたが、超多忙の毎日が続き、地元の選挙対策活動を夫の身代わりでつとめていた武子夫人が若くして亡くなるという不幸も。父親の病気の進行に、心配の度を増していた長女の治子(はるこ)さんが、肝臓移植の可能性を知ったのが2002年。しかし、女性の肝臓は小さく、「嫁入り前の妹の体を傷つけられるものか」と太郎氏がとって代わり、この年の4月、親子の間の移植が信州大学病院で決行されたのだった。

洋平氏はほんとうに我慢づよい性格。「苦しい」とか「辛い」とかの言葉を吐いたのを聞いた記憶はない。移植の成功後も健康回復に努め、81歳を超えた今も元気そのもの。誠に頭の下がる思いだ。口には出さないが、ご本人の胸の内には、息子への感謝の思いが溢れ、それが生きる力のいっそうの源泉となっているのだろう。

その洋平氏ご本人が、ある時、ある人に笑みをもらしながら言った言葉。

「なあに、もともと（太郎の体は、父親たる）オレのものなんだから……」。